

大学改革の取組について

令和2年 5月8日

文部科学省



1. 大学の研究力強化に向けた取組

- 若手教員をはじめとした研究者を取り巻く状況は厳しく、「研究者」の魅力が低下していることが懸念されている中、関係府省が連携し、研究力強化に向けて議論。
- ①若手の研究環境の抜本的強化、②研究・教育活動時間の十分な確保、③研究人材の多様なキャリアパスを実現し、④学生にとって魅力ある博士課程を作り上げることで、我が国の知識集約型価値創造システムを牽引し、社会全体から求められる研究者等を生み出す好循環を実現するためのパッケージを策定

「人材」、「資金」、「環境」の三位一体改革を進め、大学改革等を実現し、イノベーションの創出を加速化していくことが重要



**研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ 策定
(2020年1月23日 総合科学技術・イノベーション会議)**



**文部科学省において、総合パッケージに基づき、若手研究者支援（人材）に向けた議論を実施
⇒ 主要3課題について、今後の方向性を検討中**

若手研究者をとりまく3つの課題

- 研究を行うのは「人」。博士課程学生を含む若手研究者が先端研究の現場の担い手
- 近年、**博士課程進学者は減少傾向、優秀な学生が研究の世界に失望し、研究者を志望しない傾向**が顕著
- この状況を打破するためには、「処遇向上」と「ポスト確保」両方が不可欠。**優れた人材が研究の世界に飛び込み、腰を据えて挑戦できる環境整備**が急務

課題

総合パッケージでの達成目標

今後の方向性（検討中）

① 博士課程学生の 処遇の向上 (経済的支援の充実)

- 多様な財源を活用し、将来的に希望する博士後期課程学生が生活費相当額程度を受給できるよう、当面、修士課程からの進学者数の約5割に相当する学生が受給できることを目指す。(早期達成)

② アカデミアでの 安定的なポスト確保

- 将来的に我が国の大学本務教員に占める40歳未満の教員が3割以上となることを目指し、40歳未満の大学本務教員を約1割増（2025年度）

③ 産業界等への キャリアパス・流動の拡大

- 理工系博士号取得者の採用者数を約1,000名（約65%）増加（2025年度）

民間資金も導入しつつ、政策資源を総動員

1. 博士課程学生の「研究者」としての活動の対価として、競争的資金や企業との共同研究費の直接経費からの支援を強化
2. 大学の自主財源（運交金、間接経費等）による**学内奨学金等の強化を支援**
3. 日本学術振興会（JSPS）特別研究員（DC）、日本学生支援機構奨学金による支援を継続的に実施

1. 研究者として順調なキャリアを積み、博士号取得後10～15年頃までには任期のないテニュアポストを得られること等により、**長期的な展望を描くことができる環境を整備**

1. **社会のニーズに応える大学院教育**を構築
2. 大学院学生を対象とした「**ジョブ型研究インターンシップ**」を推進
3. 博士号取得者の企業等での活躍に関する好事例の収集・発信
4. 卓越研究員事業の改善を実施
5. ポスドクの支援、マネジメント人材、URA、エンジニア等のキャリアパスの明確化

※若手研究者支援と並行し、**運営費交付金と競争的資金の一体的な改革**について引き続き検討